

令和4年度 学校評価について（報告）

1 提出状況について

(1) 教職員 ※ 提出率 100% （7月と11月に実施）

パソコン及びQRコード使用（事務室職員）Web方式によるGoogleフォームを活用した無記名調査を実施した。締め切り後に、学部係で未送信アカウント名のみを確認した。送信状況は、わずかではあるが期日後の提出や、送信ミスと思われる事例も見受けられた。意見の書込数もさらに増えると、学校改善に役立てることができると考えている。

(2) 保護者 ※ 提出率 62.5% （11月実施）

本年度からの新たな取り組みとしてWeb方式で実施した。紙面と安心安全メールで告知し、締め切り1週間前に、担任に連絡帳などを通して、回答したか確認をしてもらった。前回の89.8%に比べ、提出率は低下したが、自由記述は増えている。新しい取組なので、今後は提出率も上がっていくと期待している。またICTの扱いが苦手な保護者向けに、研修を行うなどの対策も考えられる。

2 アンケートの分析方法

(1) 成果、課題については、前回同様次のように捉える。

- 成果 評価4の割合・・・ 33.3%以上（3人に1人以上）
- 課題 評価1, 2の割合の合計・ 20.0%以上（5人に1人以上）
または、1の割合・・・ 10.0%以上（10人に1人以上）
- 努力項目 評価1, 2の合計が11%以上
→ 「課題」とはならなかったが、今後気をつけていかなければならない。

※ 評価の内容

- | | |
|------------------|----------------|
| 4 十分（そう思う） | 3 概ね十分（ややそう思う） |
| 2 やや不十分（あまり思わない） | 1 不十分（思わない） |

(2) 自由記述をしてもらい、係で考察する。

※ 自由記述内容

記述1 評価「4」を付けた項目について、「良かったことや今後も続けてほしいこと」などをお書きください。

記述2 評価「1」「2」を付けた項目について、「改善のためのアイデアやご意見」などお書きください。

3 保護者アンケート結果と考察

評価項目	4	3	2	1	1と2の合計	評価項目	4	3	2	1	1と2の合計
1	78.7%	18.7%	1.3%	0.6%	1.9%	7	67.1%	26.7%	1.9%	0.0%	1.9%
2	58.7%	37.4%	2.6%	0.0%	2.6%	8	47.8%	39.8%	6.8%	0.6%	7.5%
3	58.0%	36.3%	3.8%	0.0%	3.8%	9	43.6%	44.8%	6.1%	0.0%	6.1%
4	68.4%	25.9%	2.5%	0.6%	3.2%	10	52.8%	36.8%	4.3%	0.0%	4.3%
5	60.4%	32.1%	4.4%	0.0%	4.4%	11	54.9%	29.3%	7.3%	1.8%	9.1%
6	58.1%	33.1%	5.0%	0.0%	5.0%	12	55.4%	33.1%	3.0%	1.2%	4.2%

各項目の質問内容と、評価の平均（中央値）

項目	質問内容	平均 (中央値)
1	お子さんは、元気に登校できていますか。	3.74
2	学校は、お子さんに応じた課題を設定し、丁寧な教育を行っていると思いますか。	3.52
3	学校は、「個別の教育支援計画」を、保護者や関係機関との連携において活用をしていると思いますか。	3.48
4	学校は、お子さんの確かな成長を促すために、連絡帳や教育相談等を通して信頼関係を築く努力をしていると思いますか。	3.57
5	学校は、お子さんが豊かな生活を送ることができるように情報提供をしたり、活動の場を用意したりしていると思いますか。	3.47
6	学校は、作品の出品等に取り組み、お子さんが学んだことを発表する機会を設けて「やりがいや生きがい」を育てていると思いますか。	3.42
7	学校は、保護者と協力して、お子さんの日々の健康観察を確実にを行い、疾病や感染症の予防及び情報の提供を行っていると思いますか。	3.52
8	学校は、保護者と協力して、お子さんの生活上必要な指導・支援や、性に関する指導、摂食・食育に関する指導を行っていると思いますか。	3.25
9	学校は、保護者と連携して、お子さんの余暇の過ごし方や、社会生活のマナー指導等を行っていると思いますか。	3.21
10	学校は、保護者と協力して、お子さんが人と豊かに関わったり、行動したりできるようになるための取組を行っていると思いますか。	3.30
11	学校の職員は、お子さんのことについて気兼ねなく相談でき、課題解決に向けて、共に取り組んでいると思いますか。	3.24
12	学校の職員は、お子さんの人権を大切にして指導・支援を行い、教育活動に専念していると思いますか。	3.28

(考察)

全ての項目において、「成果」となり、「課題」及び「努力目標」は無かった。自由記述にも、好意的なものが多く、本校職員の取り組みについて、理解をいただいていると考える。

しかし、項目 11 は努力目標の 10%に近い値になっている。自由記述にも、そのことについて触れる内容が多いので、開かれた学校を目指し、一人一人が意識して取り組んでいく課題と思われる。

その他、評価の低い項目 8 や 9 については、自活や生単などの授業を通して学校で指導していることを、週報や各通信などで紹介することで、保護者にも学校での取り組みが広く周知していくと思われる。

また、保護者が困っていることを相談しやすい体制を作ることで、項目 7～11 については改善されていくと考える。

4 考察を受け、職員会議や学校評価委員会で出た意見のまとめ

- 保護者からの評価は全ての項目において、「成果」となり「課題」「努力目標」となるものではなく、学校の取組について理解をいただいていると考えられる。自由記述でも「できなかったことができるようになり日々成長しているのがとても嬉しい。」「丁寧に見守っていただいていることに感謝。」「ふたば祭の作品が新作が出ていたりして生徒を大事にしているのが伝わる。」などの意見をいただいている。

評価項目や自由記述から以下のことが、来年度の課題として考えられる。

〈人権に配慮した言葉掛け〉

評価項目 12「人権を大切にして指導・支援を行っている」では、十分(55%)、概ね十分(33%)と高い回答があった。しかし、自由記述で個々の能力に合った課題での学習や、物事を成功に導くまでの言葉掛けなどについての指摘をいただいている。児童生徒の実態をさらによく把握し、指導の際に将来の生活を見据えて内容を精選して丁寧に指導するとともに人権に配慮した言葉遣い、言葉掛けをするよう共通認識が必要。

〈家庭との共通理解〉

評価項目 11「気兼ねなく相談でき、課題解決に向けて共に取り組んでいる」では、十分(55%)、概ね十分(30%)の回答があった。その一方で授業での取組方法や学校での様子の連絡などについての対応は、これまで以上に家庭と共通理解を図り、一人一人が意識して取り組んでいく。

〈下校時の送迎について〉

交通安全に関する評価項目がなかったが、自由記述で下校時の送迎、学童についての意見をいただいた。下校時の保護者送迎は14時50分まで、または15時30分以降(バス、学童発着時間帯を避ける)をお願いしていることを、今一度周知することが必要。

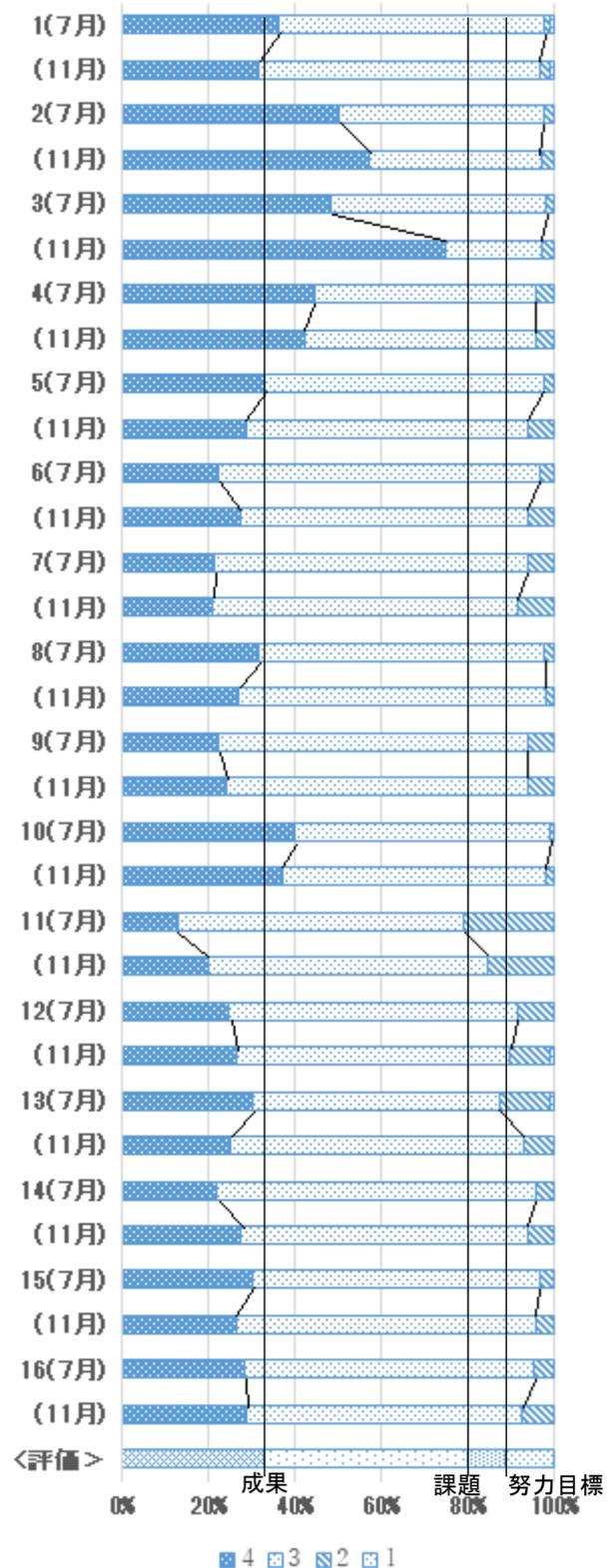
コロナ禍で、職員とのコミュニケーションの機会が少なくなった。バス通学生と保護者送迎では、保護者と職員とのコミュニケーションに差が出る。また、送迎時も、児童生徒が安全に下校できるよう職員の誘導が立っているが、送迎車が多く、学校での様子を話す時間が短くなる。自由記述に「迎えのときに、担任によって対応に差を感じる」という意見もあった。保護者は我が子をしっかりと見てもらっているという実感が欲しいと思う。短い会話の中でも、柔らかい一言を入れるなど言い方を考えていくとよいのではないかと。

〈回収率の低下について〉

本年度より、新たな取組として、WEBによるアンケートを実施した。昨年度に比べて回収率は下がったが、自由記述が増えるなど、プラスの面も多く見られた。来年度以降もこの形式を続けていく予定である。回収率が下がった原因を追及して解決していくことが大切。必ず提出しなければならないという意識をもってもらうための工夫や、紙媒体での呼びかけ、保護者向けのICT講座などの対策が考えられる。

5 職員アンケート結果

評価 項目		評価					1と2 の合計
		4	3	2	1		
1	7月	36.2%	61.5%	1.5%	0.8%	2.3%	
	11月	31.7%	65.0%	2.5%	0.8%	3.3%	
2	7月	50.4%	47.3%	2.3%	0.0%	2.3%	
	11月	57.1%	40.3%	2.5%	0.0%	2.5%	
3	7月	48.5%	50.0%	1.5%	0.0%	1.5%	
	11月	74.8%	22.7%	2.5%	0.0%	2.5%	
4	7月	44.6%	51.5%	3.8%	0.0%	3.8%	
	11月	42.5%	53.3%	4.2%	0.0%	4.2%	
5	7月	33.1%	64.6%	2.3%	0.0%	2.3%	
	11月	29.2%	65.0%	5.8%	0.0%	5.8%	
6	7月	22.3%	74.6%	3.1%	0.0%	3.1%	
	11月	27.5%	66.7%	5.8%	0.0%	5.8%	
7	7月	21.5%	72.3%	6.2%	0.0%	6.2%	
	11月	20.8%	70.8%	8.3%	0.0%	8.3%	
8	7月	31.8%	65.9%	2.3%	0.0%	2.3%	
	11月	26.9%	71.4%	1.7%	0.0%	1.7%	
9	7月	22.3%	71.5%	6.2%	0.0%	6.2%	
	11月	24.2%	70.0%	5.8%	0.0%	5.8%	
10	7月	40.0%	59.2%	0.8%	0.0%	0.8%	
	11月	37.5%	60.8%	1.7%	0.0%	1.7%	
11	7月	13.1%	66.2%	20.8%	0.0%	20.8%	
	11月	20.0%	65.0%	15.0%	0.0%	15.0%	
12	7月	24.6%	66.9%	8.5%	0.0%	8.5%	
	11月	26.7%	63.3%	9.2%	0.8%	10.0%	
13	7月	30.2%	57.4%	11.6%	0.8%	12.4%	
	11月	25.0%	68.3%	6.7%	0.0%	6.7%	
14	7月	21.9%	74.2%	3.9%	0.0%	3.9%	
	11月	27.5%	66.7%	5.8%	0.0%	5.8%	
15	7月	30.5%	66.4%	3.1%	0.0%	3.1%	
	11月	26.7%	69.2%	4.2%	0.0%	4.2%	
16	7月	28.7%	66.7%	4.7%	0.0%	4.7%	
	11月	29.2%	63.3%	7.5%	0.0%	7.5%	



各項目の質問内容と、評価の平均（中央値）

項目	質問内容	7月平均	11月平均
1	私たちは、自らの人権感覚を磨き、すべての教育活動において、児童生徒の人権を重視した指導を行っていますか。	3.33	3.28
2	私たちは、児童生徒の健康管理の徹底及び疾病・感染症の予防に努めるとともに、家庭等と連携した健康・保健・安全教育を推進していますか。	3.48	3.55
3	私たちは、医療的ケアを必要とする児童生徒の健康・安全に細心の配慮をするとともに、担任と特別支援学校看護師、養護教諭等の連携を強化・充実していますか。	3.47	3.72
4	私たちは児童生徒の実態に応じた体力づくりを計画的、継続的に推進していますか。	3.41	3.38
5	私たちは、児童生徒の命を守る防災教育等を推進するとともに、安全点検・ヒヤリハットの報告と活用を徹底していますか。	3.31	3.23
6	私たちは、「児童生徒一人一人の発達をどのように支援するか」という観点の下、各教科等の学習、自立活動、進路指導等を横断的な視点で見直すとともに、連続性のある教育課程の編成・実施・評価・改善を行っていますか。	3.19	3.22
7	私たちは、児童生徒の実態や学校・地域の特性等を踏まえた小学部・中学部・高等部の各段階における系統的な指導・支援を行っていますか。	3.15	3.13
8	私たちは、児童生徒のどのような資質・能力の育成を目指すのか、明確にした上で、個別の教育支援計画・個別の指導計画等を基に、教職員間や家庭等が連記した一貫性のある指導・支援を行っていますか。	3.29	3.25
9	私たちは、児童生徒の自己指導能力を育成する指導・支援に努め、成長をともに実感できる実践的な取組や「キラリ・ハット」の活動を推進し、生徒指導の充実を図っていますか。	3.16	3.18
10	私たちは、教育相談や日常の観察を適切に行い、確かな児童生徒理解を行うとともに、保護者や関係機関・団体と連携し、情報共有と共通実践を行っていますか。	3.39	3.36
11	私たちは、地域の人材や資源を活用した教育をより一層推進し、児童生徒が卒業後も生涯にわたり学び続けることのできる環境作りに取り組んでいますか。	2.92	3.05
12	私たちは、本校の教育活動や障害のある児童生徒への理解・啓発を積極的に推進していますか。	3.16	3.16
13	私たちは、教育の質の向上を図るために、業務の簡素化・効率化及び業務改善に対する意識を高めるとともに、働きやすい職場づくりに取り組んでいますか。	3.17	3.18
14	私たちは、特別支援学校教職員として求められる資質や指導力・専門性の向上を図るために自己研鑽に努めていますか。	3.18	3.22
15	私たちは、常に「教職員の行動指針」（高い専門性・人権感覚 課題解決のための創造力・適切な判断 同僚性・協働）を意識し、教職員相互の信頼と協力に努めながら、児童生徒の教育活動の充実に専念していますか。	3.27	3.23
16	私たちは、私たちは業務を進めるために2つのコミュニケーション（必要な報告・連絡・相談などの「道具的コミュニケーション」及び挨拶や人間関係形成などの「自己充足的コミュニケーション」）を徹底していますか。	3.24	3.22

6 職員アンケート考察（11月） ※「前回」＝7月（1回目）,「今回」＝11月（2回目）

「成果」として認められる項目は、2, 3, 4, 10と4項目であった。特に、項目3「医療的ケア」に関することについては大幅に評価が上がっている。

前回「成果」だった項目1, 5は、評価が下がっている。「人権感覚」と「安全対策」は常に意識していかなければならないことである。人権同和教育や安全指導の係などと連携して、学校全体で取り組んでいかなければならない。また、職員間でヒヤリ・ハットの事例などを積極的に共有していかなければならない。

「課題」は今回無かった。「努力目標」として項目11が上がった。11は前回は「課題」として上がっていたので、改善がみられている。「地域の人材や資源の活用」は依然として難しい状況であるが、他校との交流学习や、校外への社会体験学習などを2学期は行ったことなどが要因と考えられる。「卒業後の学びの環境作り」についても、小学部は中学部への、中学部は高等部への体験入学、高等部は様々な進路学習などが、改善理由に挙げられると考える。

前回「努力目標」だった項目13は、改善されている。意識が高まっていると考えられる。

第1回と比較して、評価「4」は8項目上昇したが、評価「2」は12項目上昇している。評価「2」の値が上昇したことは、1回目より各項目の取り組みについて意識が高まり、厳しく評価をした人が増えたからと、前向きに捉えることもできるかもしれない。しかし、評価「2」の値が上昇したことは事実であるので、全体的な評価は向上したことについては評価しつつ、次年度も、職員全員で一つの課題に取り組んでいかないといけないと思う。